

学校だより
長泉小学校

☆学校教育目標 「自ら考え 高め合いながら 伸びる子」

◎重点目標=キーワード 「進んでかかわり合う」
重点生活目標 「あいさつがひびき合う学校」

あすなろ

No.10 平成30年10月1日

さらに自尊感情を育む後期に



校長 日吉美矢子

学校の裏庭では、金木犀の甘い香が広がっています。

夏から秋へと、移り行く季節と共に、学校も10月5日に前期を終え、後期が始まる節目を迎えようとしています。この節目の季節には、前期間での成長を確かめ、そして、新しい学校や学年につながる後期の生活に向けて、目標をもち、「なりたい自分」になれるように、さらに一步踏み出していきたいです。

さて、人が目標をもって前向きに生きていくための重要な条件の一つに、「自尊感情が高いこと」が挙げられます。自尊感情の高い子は、精神的に安定し、何事にも積極的に取り組み、自分の気持ちをコントロールして、自分と他の人も大切にしたい生き方ができると言われています。長泉小は、学力学習状況調査や前期の学校評価では、全国や県と比較しても、「自尊感情が高い」傾向にあり、うれしく思います。

自尊感情には、次の4つの柱が重要であると言われています。

- ・周囲から愛され包まれているという「包み込まれ感覚」
- ・友達と話が通じるという「社交性感覚」
- ・「自分ならやれる」「きっとできる」という「自己効力感覚」
- ・自分が好きという「自己受容感覚」

学校では、上の4つの柱を一人一人が感じ成長できるように、道徳の授業では、「ちょっといい自分に出会う時間」になるように、また、行事等様々な体験活動を通して、過程を大事にし、成功体験を積み重ねられるように、一つ一つの教育活動で自尊感情を育み、子どもたちを育てていきたいと考えます。

各御家庭におかれましても、子どもたちが毎日の生活の中で自尊感情を高め、安心して自信と誇りをもって成長できるよう育み、見守っていただけますようお願いいたします。

毎日のうれしい宿題

平成30年長泉小学校児童作文

わたしと母には、二人だけの宿題があります。それは、「いいこと探し」です。いつも夜ねる時にやります。ルールは一日の中で、よかったことを言ってどちらが多いか競います。勝つとうれしいけど、負けると悔しいです。どうしてこれをはじめたかという、きっかけは、「いいこと探しをしよう。」という母の言葉でした。わたしは、楽しそうだなと思って、すぐに、「いいよ。」と言いました。

いいこと探しをする時は、ふとんにごろんと寝転んで話します。リラックスした気持ちです。この時間は、わたしと母の二人だけの時間です。私の母は、仕事をしているので忙しいです。でも、母としゃべる時間がふえるので、とてもうれしいです。

この間、わたしは、母にあやとりができてうれしかったことを教えました。「あやとりがうまくなってよかったよ。」と言ったら母に、「すごいね。」と言われてうれしかったです。母のいいことでわたしが心に残っているのは、「家族が元気に過ごしたこと。」と言ったことです。それを聞いてわたしは、(母はいつもこう思っているんだな。)と思いました。

たまに、いやなことを話すと、「人の注意を聞けない人は、将来笑われてははずかしい思いをするだけだから。」と笑いながら言ってくれました。わたしは、友達に注意したのにやめてくれなくて、嫌だったことが気になっていただけ、母の言葉を聞いて、とても自信が出てきて、(よし、やるぞ。)という気持ちになりました。

いいこと探しをすると自信もてるし、幸せを分けられることが楽しいです。

だから、先生や友達にもお勧めしたいです。



児童教育講演会開催

9月25日(火)、清水町出身の絵本作家 宮西達也さんをお迎えし、4, 5, 6年生(約500名)を対象に教育講演会を開催しました。保護者、ちょこばなスタッフ、学校評議員、民生委員の皆様にも参加を募ったところ、50名ほどの方々がいっしょに参加していただき、子どもにとっても、大人にとっても、とても有意義な講演会となりました。

宮西達也さんは、日本を代表する絵本作家の一人です。どこの図書館、図書室にも宮西達也さんのコーナーが常設され、多くの絵本が並べられています。映画化された作品、教科書に掲載されている作品もいくつかあります。(子どもたちが使用している2年生の国語の教科書にも、「おまえうまそうだな」が載っています。)また、世界各国で絵本が翻訳されており、宮西さん自身が海外にまで講演に行くことも多いそうです。

今回の講演会は、「キャリア教育の一環として、絵本作家という職業に就く宮西さんの生き方、人とのかかわりについての話を聞き、職業観を広げる」ことを目的に行いました。演題は「ニャーゴのやさしさ・ティラノのおもいやり」でした。その中で、宮西さんが、6つの作品の読み聞かせをしてくださいました。そのうちの2作品は、先生たちが登場人物の役となり宮西さんといっしょに読み聞かせをしました。宮西さんは、読み聞かせについて、「どんな読み方でもいい。大事なのは、その本への思い。自分が感動する本だなと思えば感動して読める、楽しい本だなと思えば楽しく読める。この本が大好きという思いが第一。読み手の感性を聞き手にあげるのが読み聞かせ。」と話していました。また、「ニャーゴ」の読み聞かせを通して、あいさつの大切さについても話してくれました。「あいさつを元気にすることはコミュニケーションの始まりであり、人と人との出会いの始まり。一生懸命あいさつしてください。」とメッセージを残してくれました。

また、御自身の絵本作家としての生き方を通して、子どもたちにメッセージを残してくれました。以下は、そのメッセージを受け止めた子どもたちの感想です。



- わたしは、マイナス思考で、自分から何かをすることが少し苦手です。でも、宮西さんの一生懸命にやるとか、自分のもった夢をあきらめないでがんばり続ければ叶うことや、自分を支えてくれる人たちがいると聞いて、勇気をもらいました。一度きりの人生なんだから、自分がやりたいと思ったことは、どんどんやって、少しの失敗でも、またがんばろうとプラス思考で自信をもってやっていきたいと思いました。
- 宮西さんの本をたくさん読んだことがあって、その本が好きだから、宮西さんは最初から認められていたんだと思いこんでいました。なので、最初は認められていなかったと聞いて、とても衝撃を受けました。宮西さんは「一生懸命」の言葉を何回も口にしました。わたしは、そんなに好きなことじゃなければ、一生懸命やなくても大丈夫だと思っていました。でも、宮西さんの話を聞いて、どんなに小さいことでも一生懸命やれば、きっと何かにつながると考えるようになりました。これからは、どんなことでも、一生懸命やりたいと思います。

大盛況だったナイトウォーク

9月29日(土)、PTA主催事業として「長小ナイトウォーク」を開催しました。雨が降るあいにくの天候でしたが、親子合わせ、800名ほどの参加がありました。1~3年生は、親子で、B棟C棟の6ヶ所のスタンプを集めることを目的に、夜の校舎を探検しました。4~6年生は、10名ほどのグループを作り、途中途中、保護者や教員がお化けに扮しおどろかす中、A棟を探検しました。「キャー。」という子どもたちの悲鳴が絶え間なく夜の校舎に響き渡りました。

子どもたちの、怖い思いをした中にも満足感あふれる表情が印象的でした。PTA役員の皆様の綿密な計画と保護者ボランティアの方々の御協力で大盛況のナイトウォークでした。

